

デューイーおよび日本十進類法の「地理区分」

“Areas” Table of Dewey 18 as Compared with
Nippon Decimal Classification Ed. 7.

小 林 胖
Yutaka Kobayashi

Résumé

One of the new features of Dewey Decimal Classification Ed. 18 (DDC 18) is a series of seven “Tables” applicable to its “Schedules”. As the “Areas” table seems to have the widest application, amounting to over 400 subjects, some interesting features are picked up in comparison with Nippon Decimal Classification, 7th ed. (NDC 7).

It was found that all instructions given to individual subjects are fairly well-formulated. The concept of ‘base number’ and ‘addition’ of subdivisional notation clearly informs the classifier of the procedure of number building (synthesis) on the spot. Double application of table notations to a single subject is not so rare.

“Areas” related subjects of DDC also suggests DDC’s evolution towards internationalization of the structure and terminology, as well as its undertones throughout the schedules. The NDC 7, as compared with DDC 18, reveals strong Japanese preference or bias, which, the author fears, might exert constraint over whole scheme.

The typography and display of DDC is also good and helpful. Some recommendations to future NDC revision are proposed.

I. はじめに

- A. Dewey Decimal Classification 18 版の特色
- B. 日本十進分類法
- C. 簡単な比較

II. DDCの“構造”的特色

- A. “Tables” の多様化
- B. “Glossary” の作成
- C. 分類表の表現様式

III. DDC 18 における“Areas”記号

- A. 適用指定箇所の分布 (NDC 7 との比較において)
- B. “Areas” Table の構成
- C. “Areas” 記号使用指定パターン
- D. “Table” 記号の二重指定
- E. NDC の「地理区分」指定パターン

IV. 考 察

- A. 国際性
- B. 型式のもつ機能
- C. NDC への提言

I. はじめに

A. Dewey Decimal Classification 18版の特色

Dewey Decimal Classification and Relative Index (以下、DDC と略す; 18版は DDC 18 とする) 18版は 1971年に 3冊本の形で刊行された。即ち、第1巻は NDC の言葉でいえば「序説」、「助記表」、「要目表」より成り (460 p.)、第2巻は「総表」(1167 p.)、第3巻は「相関索引」1067 p.)、総計約 2700ページに達する巨冊である。「表」と「索引」とが別々の巻になったのは、16版からであるが、このことは使い勝手の面で一つの改善であったといえよう。さらに「助記表」が別になったのは今回の版であり、同一方向へさらに一歩進めたものといえる。

第1表 DDC 14-18 版の比較

版 類	14 (1942)	15 (1951)	16 (1958)	17 (1965)	18 (1971)
0	897	156	333	341	443
1	2028	109	499	641	643
2	805	284	760	1191	1291
3	2527	810	1703	2545	3430
4	319	188	324	369	280
5	3649	635	2083	2603	2830
6	9860	955	4031	5170	5694
7	2880	456	1407	1785	1912
8	2024	285	302	651	425
9	6375	810	6486	1836	2032
計	31,364	4,688	17,928	17,132	18,980
助記表項目数				5,223	7,161

「序説」(Editor's introduction, Melvil Dewey's introduction to edition 12 を主とする) を第1巻に入れたのは、モノの順序でもあり、又、最も薄い巻という便宜的な理由もあったのであろう。この2つの introduction の間に、新しく“Glossary”が付けられたことは大へん意義深いので、後に詳説する。

なお、最近の版における entry 数の変遷は第1表のとおりである。¹⁾

この総項目数を概観しただけでも、14版と15版との間の大きな‘ゆらぎ’、が認められる。これは16版から回復し、16~18版では大体安定している。17版と18版の間では、全体として10%程度の増加で、順調とみるべきであろう。

16版から17版の間で、9部門が大きく減少しているが、これは本表の大半を「地理区分」に移した結果である。同様に、4、8部門も助記表への移行のためと思われ、18版の方がむしろ減少している。

B. 日本十進分類法

「日本十進分類法」(以下、NDC と略す; 新訂7版は NDC 7 とする) は 1961年に刊行された1冊本である。その編さん時期は DDC 16 (1958) に相当するので、分類項目自体の選定、および表現について、今日論ずることは、NDC に対して酷であり、すでに第8版が予告されている以上、殆ど意味がない。

一方、DDC が 18 版および 17版で改善したのは、単なる項目の展開、用語の更新にとどまらず、上述の 4、8、9 部門に既に推測されるように、“構造的”改善であることは既に指摘されている。²⁾ このうち、具体的に「地理区分」に焦点をあてて考察する。

C. 簡単な比較

第2表 DDCとNDCの数量的比較

	NDC 7	DDC 18	N/D(%)
本表;			
ページ数	381	1,167	33
項目数	ca. 11,000	ca. 19,000	58
項目/ページ	29	16	181
索引;			
ページ数	312	1,067	29
項目数	ca. 21,000	80,000	26
項目/ページ	67	75	89

この表によって、DDC はページ数では NDC の3倍あるにも拘らず、項目数は1.7倍であり、そのため、ページ当りでは NDC の方が1.8倍多いことになるのがわかる。この点は後述する。

索引は当面の対象としていないが、ページ当り9割程度の比で、総ページ数の比が項目数に大きく依存していることがわかる。

II. DDC の“構造”的特色

A. “Tables”の多様化

DDC は16版までは、“Form division の助記表1つだけが用意されていた。従って、Form division 以外の細分が必要な箇所には、地理区分の場合には“divide like 930-999”のように、本表の項目を流用することになっていた。“divide like 490”は言語細分を文学に適用する場合に用いられる。主題をファセットとして付加する場合には、016(書誌)の場合のように“divide like main classification”と記される。

DDC 17 では、“Form division”は“Standard subdivision”と改称され、新しく“Area Table”が独立させられた。これは“divide like 930-999”などに代るものであり、「地理区分」の助記表として指定箇所を用いる。このため、第1表の16版のコラム、9部門のところに見られるように、本表の項目の大半が減少し、助記表に移されたのである。

これとともに、“divide like”という用語に代って、“add... to the base number...”という表現になった。

これは、わかり易い表現と感じられる

例: 312 Statistics of populations

(Demographic statistics)

1. On births (Fertility)

Add “Areas” notation 1-9 from

Table 2 to base number 312.1

314 General statistics of Europe

Add “Areas” notation 41-49 from Table 2 to base number 31, e.g., general statistics of England 314.2

とくに二番目のかたちが典型的な表現である。このような指示は、必要箇所にくりかえされ、全部で400をこえている。このことは、

- (i) 他の、あるいは包括的な指示を参照することなく、その場で完全な指示が得られる、
- (ii) 分類記号を合成する手順が明確に示され、用例もついていて、迷うことがない、

という利点が多い。

分類作業者にとっては、分類作業は全体を参照するものではなく、狭い範囲で勝負しなければならないのであるから、その場で間に合うことはより使い易い様式といえる。

“Add to...”という指示用語と同時に、“base number”という語が用いられるようになったが、このことも、上例の1と2とを比べるとわかるように、base number はその都度異なるのである。314の場合は、1ケタおとした31がbase number であり、312.1の場合はそのままbase number とされているわけである。

“Tables”は DDC 18 では全部で次のようになっている。

Table 1. Standard subdivisions	(8 p.)
Table 2. Areas	(252 p.)
Table 3. Subdivisions of individual literatures	(20 p.)
Table 4. Subdivisions of individual languages	(3 p.)
Table 5. Racial, ethnic, national groups	(9 p.)
Table 6. Languages	(13 p.)
Table 7. Persons	(20 p.)

これらの“Table”をNDC 7と比べると、次のような出入りがある：

DDC	NDC
Table 1	助記表 B
2	C, D
3	G
4	H
5	—

6	F
7	—
対応なし	A, E

即ち、“Tables”の多様性は、NDCとは外見的にはそれ程は違わないということもいえよう。

B. “Glossary”の作成

18版では、分類学用語の変更が少くない。そのため、新しく“Glossary”(5 p.)が用意されている。筆者は先に分類学用語について若干考察したが、³⁾このとき土台としたのは文部省「學術用語集 図書館学編」である。これは無批判に外国の用語集をそのまま下敷としたために不整合部分があること、また用語集の一つであるアメリカ図書館協会(ALA)の用語集は年代が最も古く、特に分類学用語が不十分なことを指摘した。

今回の“Glossary”を「學術用語集」と比べると次のようになる。

見出し総数	72	
内: see 参照		4
obsolete 表示		1
差 引	67	
<hr/>		
「學術用語集」になし		37
” あり		23
” あり, 別の意味		5
“Table”名		7

新しい語の例	{	base number
		hierarchical force
		scope note
別の意味で用いられる語	{	entry
		schedules
		table
忘れられていた語	{	aspect
		mnemonic device

18版における最も重要な用語の変革は、上記の‘schedules’および‘table’である。“Glossary”の定義を訳すと次のようになる。

Schedules. DDCの主類10部門およびそのすべての細分の記号をなす、一連の番号。これまでは general tables または tables と称していた。

Table. 多様な主題や学問について、くりかえし使用される各種の特殊な概念を示す一連の従属的記号。記号構成に用いるが、それ自体では決して用いられない。補助分類表 (auxiliary tables) と

いわれる。以前は supplementary tables といわれた。**Tables** という語は現在 schedules といわれるものにも、かつて用いられた。

日本語の分類‘表’の‘表’も、一般に table の訳として理解されているので、table の用法が補助表に限定され、本表(又は総表)には今後用いることができないことには、多少抵抗を感じる人もあろう。とくに‘schedule’によい訳ができない限り、‘分類表’という語は生き残るであろう。

Schedules は前の版でも、「序説」の中で部分的に使われていたが、この語と scheme の2語は、むしろ英国で定立された用語で、本来 schedules は分類表の‘部分’を示し、scheme は‘全体’を示す際に用いることがコンセンサスとなっている。

この“Glossary”全体の印象は、英国で培われた分類学の成果がかなりとり入れられていること、その基調はファセット分析と合成であるといわれ、⁴⁾このことが DDC 18 の“構造”的改善を形成していることである。ただし、“ファセット”という語は未だ採用されていない。

英国の貢献は、分類学の理論面にとどまらず、*British National Bibliography* の十数年にわたる使用実績と MARC における英米協力によるところもまた大きいであろう。さらに、ファセット分析と合成の手法は「国際十進分類法」の改訂およびファセット分類法の作成によっても検証されているし、英国全体における分類目録の優勢も、UDC および DDC の使用環境をたしかめていると思われる。

なお、“Glossary”につづく“Index to Preface, Editor’s Introduction, and Glossary”には、“Glossary”の2倍の見出しがあり、より詳細な検討に役立つであろう。

C. 分類表の表現様式

1. 分類項目

すでに第2表において、DDCとNDCとを比較して、ページ当りの分類項目数の大きな差が、ディスプレイの差ともなっていることを指摘した。このことは両者の任意のページを一見しても感じ取られる。

この一つの理由は、scope note、注、記号合成指示その他の量の差にもよると思われる。他の一つは、これらが分類項目(記号と heading)とは行を改めて、その下に書かれるという事情にもよるものである。もちろん、英語と漢字という差も後者に影響しているように思われ、またこのためか、NDCではスペース節約のため二段に

組んだ箇所も少くない。

例: DDC 18

632 Plant injuries, diseases, pests

[中略]

.1 Environmental injuries

- .11 From low temperatures
- .12 From high temperatures and drought
- .14 From hail
- .15 From lightning
- .16 From wind and rain
- .17 From floods
- .18 From fires.
- .19 From air pollution and radiation

[高さ 41mm]

NDC 7

615 作物栽培 (作物学)

[中略]

- .8 病虫害とその防除 (作物保護). 農業災害
- [中略]
- .89 農業災害. 気象の害 [→: 451.98; 613.1]
 - .891 水害 (水蝕) .894 冷害
 - .892 風害. 風水害 .895 雪害. 霜害. 雹害
 - .893 旱害 .896 塩害

[高さ 15mm]

また、この項目が掲載されているページ全部でみると、NDC は 36項目あり、DDC は正味 13項目であって、前記の平均値付近になる。

2. Scope note, 参照, 注記など

前例にはそれぞれ、scope note などがついているので、その部分のみを、再びとり出してみると次のとおりである。

例: DDC 18

632 Plant injuries, diseases, pests

Control methods [formerly also 581.28], causes, characteristics, effects on crops
Class injuries, diseases, pests of specific crops and groups of crops in 633-635

SUMMARY

632.1 Environmental injuries

- .2 Galls and pathological development
- .3 Bacterial diseases
- .4 Fungus diseases

.5 Harmful plants

.6 Animal pests

.7 Insect pests

.8 Viral and rickettsial diseases

.9 Pest control

NDC 7

615.8 病虫害とその防除 (作物保護).

農業災害

[個々の作物病虫害は、各作物の下に収める.]

[中略]

.89 農業災害. 気象の害 [→: 451.98; 613.1]

DDC と NDC とでは、1 ケタ異なるので、少し見にくくなるが、DDC の 632 の heading の下に小さい字で書いてあるのが、'scope note' である。この語がソールラス関係で常用されていることはいうまでもない。

SUMMARY は NDC の「要目表」などに当るが、DDC では、第 1 巻の巻末に、NDC の「主類表」(10 部門)、「主綱表」(百区分)、および「要目表」(1000 区分)と同等の summaries が付けられているほかに、必要に応じて、次の 1 ケタの見通しを与えるために、各所に挿入されている。これは前述のように、1 ページ当りの display が少いので、この 632 の場合には比較的短かく、2 ページに収まっているけれども、その 1 つ前の 631 では 6 ページにわたる場合には、大へん便利である。将棋棋の「次の一手」が示された効果といえよう。

さらに、この 632.1 の SUMMARY に示された各細目は、その本来の場所でもこれと同じ語形で太字で印刷されているから、その案内はある意味で“機械的”であるといえることができる。

Scope note の次の注記は、“Class...in 633-635” という形であるが、これも 633 から 635 までの参照ということではなく、1 つの表現形として次のような heading を見よということである。

► **633-635 Production of specific crops**

そして、633 以下の展開がこのあとにつづくのである。この形は“centered heading”と名付けられている。階層性と記号法の一致しない場合に一般に用いられる。

即ち、630 は農業技術一般をカバーするが、631 から 639 までの各目は、ファセットが異なるものを次のように便宜的に (記号の必然性から) 配列されているのである。

デュイーおよび日本十進分類法の「地理区分」

- 631 農業技術, 機械, 資材
- 632 病虫害, 災害
- 633 作物
- 634 果物
- 635 園芸
- 636 家畜
- 637 酪農
- 638 Insect culture
- 639 野生動物, 植物

この事情は NDC においても変りない。その、616, 617, 618 が大体これらの作物に当るが, centered heading 方式は用いられていない。UDC が / を用いて, この概念を示すことはよく知られている。ただし, DDC の centered heading は, heading として用いるものではないから, 太字で印刷せず, 案外見出しにくい感がある。[左端の▶は centered heading であることを示す]

III. DDC 18 における “Areas” 記号

前述のように, DDC は 17 版において, “Areas” 記号法を採用して, 9 類の本体から細分を移し, 補助装置を充実し, さらに 18 版において, この方向に沿って, 7 箇の “Tables” を確立した。“Areas” 記号は最も分量が大きく (252 p.), その上最も適用指定箇所が多いので, その使用法の面から, 指定様式, パターンを考察す

る価値がある。

A. 適用指定箇所の分布 (NDC との比較において)

まず, ことわっておかなければならないことは, DDC と NDC とは, 主類の順序ならびに範囲に不一致があり, 同一記号をもって比較するわけにはいかない。最も複雑な部門は, いうまでもなく, それぞれの 6 類である。DDC の 1 類と 2 類とは, NDC で 1 類に合併されているが, メカニカルに切断可能である。これに, NDC の 2, 8, 9 類をそのままスライドさせれば, 次のような近似が可能である。

DDC	NDC
0 (総記)	0 (総記)
1 (哲学)	100-159
2 (宗教)	160-199
3 (社会科学)	3 (社会科学)
4 (言語)	8 (語学)
5 (純粋科学)	400-489
6 (応用科学)	490 (医学), 500 (工学), 600(産業)
7 (芸術)	7 (芸術)
8 (文学)	9 (文学)
9 (歴史・地理)	2 (歴史・地理)

これによって, 「地理区分」指定箇所の分布を調べると次のようになる:

第 3 表 「地理区分」指定箇所比較

DDC 主類	対応の NDC	ページ数 (同%)		地理区分指定項目数 (%)				DDC/NDC比			
		DDC (%)	対応の NDC (%)	DDC (%)	対応の NDC (%)	ページ数	指定数				
0 (総記)	=0 総記	31	2.7	12	3.7	35	8.3	18	9.0	2.6	1.9
1 (哲学)	100-159	32	2.8	15.5	4.7	6	1.4	3	1.5	2.1	2.0
2 (宗教)	160-199	78	6.7	13.5	4.1	35	8.3	5	2.5	5.8	7.0
3 (社会科学)	=3 (社会科学)	240	20.6	48	14.6	104	24.5	77	38.7	5.0	1.4
4 (言語)	=8 (語学)	18	1.5	11	3.3	17	4.0	1	0.5	1.6	17.0
5 (自然科学)	400-489	171	14.9	40	12.2	40	9.4	19	9.5	4.3	2.1
6 (応用科学)	490(医学), 500(工学) 600(産業)	323	27.8	122	37.1	28	6.6	50	25.1	2.6	0.6
7 (芸術)	=7 (芸術)	127	10.9	27	8.2	41	9.7	16	8.0	4.7	2.6
8 (文学)	=9 (文学)	41	3.5	10	3.0	4	0.9	1	0.5	4.1	4.0
9 (地理・歴史)	=2 (地理・歴史)	102	8.8	30	9.1	114	26.9	9	4.5	3.4	12.7
		1163	100	329	100	424	100	199	99.8	3.5	2.1

この表からある程度いえることは、(i) ページ数比は、全体として、3.5、部門別には 1.6 から 5.8 であるから、やや平均的に分布しているとみられる；これに対して、(ii)「地理区分」指定箇所比は変動が著しく、6 部門では逆転もあって、殆ど意味をなさない、ということである。

B. “Areas” Table の構成

“Areas” Table が、多くの“地名”をカバーすることは当然であるが、二三の点に注目したい。Table 2 の SUMMARY は次のとおり示されている。

- 1 Areas, regions, places in general
- 2 Persons regardless of area, region, place
- 3 The ancient world
 - 4—9 The modern world
- 4 Europe
- 5 Asia Orient Far East
- 6 Africa
- 7 North America
- 8 South America
- 9 Other parts of world and extraterrestrial worlds Pacific Ocean islands (Oceania)

このうち、—1 は一見、自然地理学的の区分のみのように見えるが、「海洋区分」、政治ブロック、宗教・言語圏などを収容している。その使い方は後に実例から検討することにする。

—2 は“Persons”という、地理的観点とは異質なラベルが貼られている。これは—2 の注記と、Standard Subdivisions の—092 の注記とを読み合わせると、S.S. との平行性から生まれた記号であることがわかる。

—3 は古代世界、—4 以下は現代世界の細分が得られ、本表の 930~999 と平行し、また NDC の 210—270 と大体平行するので、わかりやすい。

“Areas” Table の—4 以下では、米国の部分—7 がすべての county を列挙していることに驚く。ページ数で 116 ページあり、“Areas”表 252 ページの 66% を占めているわけである。

イギリス、フランスについても、county や department は全部挙げられているから、ある程度思想は統一されていると考えられる。元来自国の地理区分は詳しいものが必要であり、この点では NDC の方が、自国優先の思想が各所に現われているにも拘らず、県以下の細分

が与えられていないことのほうがおかしいといえよう。これでは「日本地方区分」も使いみちが著しく制限されることになろう。公共図書館において、郷土資料のコレクションを見ると、その必要性は明白である。[都市名は、地理索引を見よ]という注記があるが、分類記号は展開されていない。

DDC の“Areas” table では、この詳しさと逆に、山脈、湖沼、河川等の、行政区画からはみ出すものの処理がキメこまかく指定されている。

例：

—77 North central United States

Lake states

Class here Middle West, *Mississippi River and Valley, *Ohio Valley, *Great Lakes

Class Ohio River in —769, each specific state of Middle West not provided for here with the subject, e.g., Kansas —781

この形は、より低いレベルでも同様にこなわれっている。

例：

—771 Ohio

—7712 North central counties

Class here *Lake Erie, *Sandusky River

[中略]

—771214 Sandusky Country

Class here *Sandusky Bay

C. “Areas” 記号使用指定パターン

さきに 1 例として“Add... to base number...”という形を引用したが、地理区分に限定しても、かなりバリエーションがあることがわかる。

1. 基本形 (最も簡単な形)

133 Parapsychology and occultism

.1 Apparitions (Ghosts)

,129 Ghosts in specific places

Add “Areas” notation 3—9 from Table 2 to base number 133.129

これは、(i) base number と heading が一致していること、(ii) “Areas” notation が 3—9 であること、(iii) ‘例’ がついていないこと、が特徴である。

2. 例をあげた形

▶ 071—079 Geographical treatment of newspapers and journalism

079 In other geographical areas

Add "Areas" notation 1—9 from Table 2 to base number 079, e.g., comprehensive works on general newspapers in Europe 079.4, general newspapers in Japan 079.52

ここでは、2例が加わって、記号合成の手順が納得がいくようになったほかに、“Area”記号が1—9になった点が基本形と変っている。この点はあとで一括して考察する。ただ、“Areas”記号は、その都度変ることに注意されたい。

3. base number のケタ上げがある場合

279 Christian church in other parts of world

Add "Areas" notation 93—98 from Table 2 to base number 27, e.g., Christian church in Australia 279.4

この場合は、274—279 自体がすでに地理区分されているのであるが、記号合成の手順としては 279 の 9 を切落して、“Areas”記号として—93—98 を合成するというステップをとっている。(274—279 も同じ手順である。)

282 Roman Catholic Church

.4—.9 Treatment by continent, country, locality

Add "Areas" notation 4—9 from Table 2 to base number 282

例は示されていないが、.4—.9 が包括的例示といえる。base number は一旦切上げて 282 にもどして、“Areas”記号を合成する。このタイプは大へん多い。前例と併せていえば、高位に既に“Areas”記号が入っていることは、literary warrant が高い主題であり、分類表として必要な処置であり、最も低い場合は、

Treatment by continent, country, locality
または

Geographical treatment

という包括的 heading がつけられているわけである。

4. base number が 0 で終る形

355 Military art and science

.033 General history and description

.03301—.03309 Geographical treatment

Add "Areas" notation 1—9 from Table to base number 355.0330, e.g., military situation and policy in Brazil

355.033081

これは、.0332 および .0335 が他の主題に用いられているため、.0331—9 とすることができないからであろう。この項のすぐ次の分類項目は：

.0332 Military situation

Add "Areas" notation 1—9 from Table 2 to base number 355.0332

であって、base number は heading と一致し、“Areas”記号は直結すれば足りる（即ち標準形）のである。

4. “Areas” notation がかなり限定されている形

(i) Add "Areas" notation 1 from Table 2 to base number 382.91, e.g., western hemisphere 382.911812

(ii) Add to 551.4 the numbers following 14 in "Areas" notation 141—144 from Table 2, e.g., caves 551.44

(iii) Add to 067 the numbers following 47 in "Areas" notation 471—479 from Table 2, e.g., organizations in Ukraine 067.71

なお、“Areas” notation 1 を加えよ、という場合には、次のように誘導することが多い。

573.909 Treatment by areas, regions, places in general

これに対して、“Areas” notation 1—9, 3—9, または 4—9 を加えよ、という形は

581.9 Geographical treatment または：

574.93—.99 Treatment by continent, country, locality

のいずれかを使いわけるのが原則である。

いうまでもなく、“Areas” notation は 1—9 が最も広く、“Areas” Table 全部を可能性として含む。これに対して、3—9 は古代社会を含む全地域を、また 4—9 は現代社会のみを示す。従って、“Areas”が実際の意味として“国家”を示す場合には次のように 4—9 が用いられる。

336 Public finance

.4—.9 Public finance by continent, country, locality in modern world

Add "Areas" notation 4—9 from Table 2 to base number 336

6. “Areas” notation の間接標示

574.921—.928 Marine biology (Biological oceanography)

Add to 574.92 the numbers following 551.46 in 561.461—541.468, e.g., Mediterranean Sea life 574.922

▶ 551.461—551.469 Specific oceanic bodies
.462 Mediterranean Sea

Add to 551.462 the numbers following 1638 in “Areas” notation 16381—16389 from Table 2, e.g., Black Sea 551.4629

ただし、574.921—928 では 551 の場合と違って、.929 が使えない（これは淡水生物学にあてられる）ために、551.469 の `南極海` はそれぞれ大西洋、太平洋、インド洋によって代用されている。

一方、“Areas” notation —162—167 も海洋にあてられている。この区分はかなり詳しい。そしてこれによれば、地中海は —1638 である、なぜこれを直接用いなかったかという疑問が残る。

D. “Table” 記号の二重指定

“Table” の多様化は冒頭に述べたが、記号の面からみて、次のような若干の相異はあるものの、facet indicator に当るものはない。

Table 1. Standard subdivisions (以下、S. S. と略す)——すべて —0 で始まる。

Table 2. Areas——すべて 0 を頭につけない。

Table 3. Subdivision of individual literatures———01—07 は standard subdivisions を流用、—08、—09 は S. S. に準ずるも、独自の展開をしている。—1—8 は形式。

Table 4. Subdivisions of individual languages———01—09 は S. S. をそのまま用いる。—1—8 は言語学の展開。

Table 5. Racial, ethnic, national groups———01、—03—04 と、—1—9 は各民族名を展開。

Table 6. Language———0 を冠する記号は用いない。—1—9 はすべて言語名。

Table 7. Persons———01—06、—08—09 と、—1—9 とを用いる。

従って、Table 記号は、指定通りに用いなければ意味をなさなくなるわけである。

1. “Table” 内の二重指定

Table の中で、同一又は他の Table 記号を付加 (add) する例は少くない。若干の例をあげると次のよう

ある。

Table 1. (S. S.)

—025 Directories

Add “Areas” notation 1—9 from Table 2 to base number —025, e.g., directories of Ohio —025771

—091 Treatment by areas, regions, places in general

Add “Areas” notation 1 from Table 2 to base number —09, e.g., the subject in Torrid Zone —0913

Table 2. (Areas)

—1 Areas, regions, places in general

If desired, add to each number as follows:

03—09 Treatment by continent, country, locality

Add 0 to base number and then add “Areas” notation 3—9 from this table, e.g., Torrid Zone of Asia —1305, rivers of England —1693042, Italian-speaking regions of Switzerland—175510494, cities of ancient Greece—1732038

—17 Socioeconomic regions

—174 Regions where specific racial, ethnic, national groups predominate

Add “Racial, Ethnic, National Groups” notation 01—99 from Table 5 to base number—174, e.g, regions where Arabs predominate—174927

—175 Regions where specific language predominates

Add “Languages” notation 1—9 from Table 6 to base number—175, e.g., regions where Italian language predominates—17551

Table 3. (Literatures)

▶ —0808—0809 Collections for and by specific kinds of persons

—0809 Collections for and by other specific

kinds of persons

—08091 For and by persons resident in specific regions

Not limited by continent, country, locality

Add “Areas” notation 1 from Table 2 to base number —0809, e.g., literature by rural authors —08091734

—08093—08099 For and by persons resident in specific continents, countries, localities

Add “Areas” notation 3—9 from Table 2 to base number —0809, e.g., literature by residents of Japan —080952

Table 4 (Languages)

—86 Readers

—864 For those whose native language is different

Add “Languages” notation 2—9 from Table 6 to base number —864, e.g. readers for Spanish-speaking people —86461 (English 428.6461)

Table 5 (Racial...)

第2注記として

Except where the schedules instruct otherwise, for a group outside its country or region of origin add 0 to the number from this table and to the result add “Areas” notation 1—9 from Table 2, e.g., people of Swedish origin in United States—397073, people of United States origin in Sweden —130485

—68 Spanish Americans

—687—688 National groups

Add “Areas” notation 7—8 from Table 2 to base number—68, e.g., Chileans —6883

—927 Arabs and Maltese

—9275—9276 National groups of Arabs

Add “Areas” notation 5—6 from Table 2 to base number —927, e.g., Iraqis —927567, Sudanese—927624

Table 6 (Languages)—該当なし

Table 7 (Persons)—該当なし

2. “Schedules” での二重指定

本表 (“Schedules”) には、各主題の必要性に応じて、“Add “Areas” notation.....to base number.....” の形で代表される「地理区分」指定がある上に、さらに “Areas” を含めて、助記表の使用の二重指定が少くない。若干のタイプをあげると：

a. “Areas” + “Areas” の例

301.29 Historical and geographical treatment of cultural processes

Add “Areas” notation 1—9 from Table 2 to base number 301.29, e.g., cultural processes of Occident 301.291821; then, for cultural processes and general relations between two countries, regions, areas, places, add 0 and again add “Areas” notation 1—9 from Table 2, e.g., cultural processes and general relations between Occident and Orient 301.29182105

Give priority in notation to the country, region, area, place emphasized. If emphasis is equal, give priority to the one coming first in the sequence of notations.

If preferred, give priority in notation to the country, region, area, place requiring local emphasis, e.g., libraries in United States class cultural processes and general relations between United States and Islamic world in 301.297301767

少し引用が長すぎたが、ここでは：

(i) 2地域が関係する場合、最初の地理記号のあとに 0 をつけ、さらに相手国の記号をつける、という一般の手順を示すこと、

(ii) 2記号の citation order を、記号順または優先順、または自国優先の3つの方法があることを示す。

この“自国優先”は後に総括する。

二国間関係はほかにも、移住、貿易、外交、援助、投資、その他、3類に多いことは常識的にも理解しやすい。

同様に、3類では ‘Racial’ + ‘Areas’ という二重指

定のタイプも多い。

b. “Racial...” + “Areas” の例

301.4 Social structure

- .45 Nondominant aggregates
- .4511 Aggregates of general, mixt, North American origins

Add “Racial, Ethnic, National Groups” notation 01—13 from Table 5 to base number 301.4511, e.g., Canadians 301.451111, Mongoloids 301.4511035; then, unless it is redundant, add 0 and to the result add “Areas” notation 1—9 from Table 2, e.g., Canadians in United States 301.45111073, Mongoloids in Europe 301.451103504

この形は 301.4512—.4519 でも同様である。ただし、base number は 301.451 とケタ上げされる。

323.1—.3 Relation of state to social aggregates

Add “Racial, Ethnic, National Groups” notation 2—9 from Table 5 to base number 323.11, e.g., relation of state to Jews 323.11924, to United States Negroes 323.1196073; then, unless it is redundant, add 0 and to the result add “Areas” notation 1—9 from Table 2, e.g., relation of state to Jews in Germany 323.11924043, to United States Negroes in England 323.1196073042, in southern states 323.1196073075

c. “Areas” + “Period” の例

一般史 (9類) において、909 (世界史)、940 (欧州史)、942 (英国史) などのレベルに応じて、それぞれの Period division が指定されている。すなわち、Period は特殊的に地域に従属して与えられるものであり、“Tables” として共通化できないということである。一般的 (絶対的) 年代区分は S.S. の 090 のところに与えられているので、地域に関係のない年代はこれによることになる。

320.9 Political situation and conditions

- .901—.904 Historical periods

Add to 320.90 the numbers following 090 in “Standard Subdivisions” notation 0901—0904 from table, 1, e.g., political conditions in 13th century 320.9022

.91—.99 Geographical treatment

Add “Areas” notation 1—9 from Table 2 to base number 320.9, e.g., political situation and conditions in France 320.944; then to the result add historical period numbers from appropriate subdivisions of 930—990, e.g., political situation and conditions in France under Louis XIV 320.944033. For Ireland (320.9415) and United States insert 0 before period number, e.g., political situation in United States during Reconstruction period 320.97308

330.9 Economic situation and conditions も同形である、

E. NDC の「地理区分」指定パターン

1. 基本形

318.9 外国の地方自治 [地理区分]

321.2 法思想史. 法学史 [地理区分]

上の例は、“外国の” とあるから、地理記号 1 (日本) は、含まないことになる。下の例は 1—7 をカバーするわけであるが、この点は区別して表示されていない。基本形は、NDC で最も多い形である。

2. 「日本地方区分」「日本地理区分」の混用

318.4 地方議会および選挙 [日本地方区分]

322.19 地方法制史 [日本地理区分, ...]

211/219 には「地方区分」とあり、221.1/9, 222.1/9 等も同じである。助記表 D の名称は「日本地方区分」である。

3. 単純に例をあげた形

291/297 [地理区分, 例: アジア地理 292; インド紀行 292.509; 越後の写真帖 291.4108; 大和地名考 291.65034]

この形は大へん少いが、この例は、地理区分の例であるうえに、地理学の形式区分の例を重ねている (—034,

—08, —09) が, このための規定が顕在していないから, 無理がある。

314 議会 (立法府)

[地理区分, 例: アメリカの議会 314.53; 地方議会 → 318.4]

この場合は, schedule の .2/.7 が欠けているが, もちろんこれは外国の議会のための座席である。日本の国会の展開が .1 から .19 まで 16 項目あるのに対して, 視覚的にゼロが対応する形では誤解を与えやすい。(323.2/.7 の如く入れてほしい)

702 芸術史・美術史 (芸術の様式)

19 地方 [日本地方区分, 例: 702.1981 阿波の芸術]

702 の場合, .1/.6 は地理区分であるが, .7 (オセアニア) が欠けている。芸術の区分については DDC との関連で, 後述する

4. Scope note と混在する「地理区分」

302 政治・経済・社会・文化諸事情

[ここには, 政治, 経済, 文化, 教育, 風習などを含めた総合的記述を収め, 地理区分する。

例: 中国文化事情 302.22]

280 伝記

[281/287 は, 多人数 (3 人以上) の伝記の類 (双伝) を分類する, 地理区分, 例: 281.7203 因伯人名録 285.303 Who's who in USA]

参考

350 統計

[地理区分, 例えば東京都統計書は, 351.36, ビルマ統計書は 352.23 の如くに.]

280 と 350 とは同形で, 281/287 および 351/357 は既に高い位置から地理区分されていて, さらに必要な場合に, 352/357 は, たとえば国別, また日本は地方区分ということになるのであろう。しかし, 指定の様式は大へん異なっている。

5. 参照などと混在する「地理区分」

312 政治史および各国の政治

[地理区分, 例: フランスの政治 312.35; 但し一般政治史は, 210/279 各国歴史の下に収める.]

337.2 貨幣史・貨幣制度 (幣制). 各国の通貨 [地理区分; →: 202'7; 739.9]

388.9 民謡

[地理区分; ここには, 民謡の研究および民謡

集 (地域的) を収めるが, 単なる歌集は 767.5, 歌詞のみは文学に収める。]

767.5 民謡. 各国の国歌および祝祭歌

[地理区分; 歌詞 → 9△1; 民謡研究 → 388.9]

あとの例では, 一方は「文学に収める」とし, 他は「→ 9△1」と記している。どちらもやや不親切であると思われる。

6. 二重使用の例

319 外交 (国際政治). **国際問題**

.1/.7 一国の外交および外交史

[地理区分をし, さらに 0 をつけて相手国によって細分する. 例: 日英外交 319.1033, アメリカの対華政策 319.53022]

次の例は DDC では一本化されて二重使用が指定されているにも拘らず, NDC では, 一方向の項目が 2 つ別々になっている。

DDC 301.328 Migration from one country to another

Add "Areas" notation 1—9 from Table 2 to base number 301.328 for place of origin, e.g., migrations from Islamic countries 301.3281767; then add 0 and again add "Areas" notation 1—9 from Table 2 for place of entry, e.g., migration from Islamic countries to United States 301.3281767073

NDC **334.4** 移民・海外移住 (一般および来往) [受入地によって地理区分, 例えば 334.41 在日朝鮮人の如く.]

[注: 朝鮮人は記号化されていない]

334.5 各国の移民政策・移民事情 [出発国による地理区分, 例えば 334.522 華僑の如く.]

NDC の `例' で, 分類記号を先にすれば, 334.41 には在日朝鮮人を含み, 334.522 には華僑を含むから, 間違いではないが, 原文の通りでは, 包含関係が逆になり, 明らかに誤りとなる。

IV. 考察

A. 国際性

1. 自国優先主義の抑制

DDCの9類(地理および歴史)ならびに“Areas”記号において、Deweyは930(および—3)を古代世界にあて、940でヨーロッパ、950をアジア...とし、自国を973、その各地方を974—979とする論理を採った。このような発想は、NDCの自国優先主義と対比すると、極めて興味ある問題をなげかけるものである。

DDCの国際的受容の一因はここにあるであろう。さらに、必要箇所には alternative を設けて、local emphasis を実行することができるよう、弾力性をもたせている。この一例は前出の301.29の例に引用してある。より一般的には:

▶ **071—079 Geographical treatment of newspapers and journalism**

Arrange geographically as below; but if it is desired to give local emphasis and a shorter number to newspapers and journalism in a specific country, place them first by use of a letter or other symbol, e.g., newspapers and journalism in New Zealand 07N (preceding 071). See also option under 071

071 In North America

(If it is desired to give local emphasis and a shorter number to newspapers and journalism in a specific country, it is optional to class them here; in that case class newspapers and journalism in North America in 079.7. See also option under 071—079)

この例では option が2つ用意されているが、このような処置は少ない、081—089も同様であるが、optionは“Areas”ではなく、“Languages”について行われる。301.29では、citation order に関する option であった。(同形は327.3—.9などにもある)

342 Constitutional and administrative law

.3—.9 Specific jurisdictions

(If it is desired to give local emphasis and a shorter number to constitutional and administrative law of a specific jurisdiction, it is optional to use 342 without geographical subdivisions as base number [下略])

以上のように、地理区分に関して、便宜あるいは“類

を立てる”措置がなされていることは、DDCの国際性を保証(または補償)するものであるといえよう。

このほかに、Schedules 自体とくにその heading にこのような配慮が感じられるところが少なくない、たとえば、

371.97 Students exceptional because of national [formerly 371.98], racial, ethnic origin

Add “Racial, Ethnic, National Groups” notation 01—99 from Table 5 to base number 371.97, e.g., education of Jews 371.97924; then add 0 and to the result add “Areas” notation 1—9 from Table 2 for place located, e.g., education of Jews in France 371.97924044

この扱い方は、汎用であって、同様なケースにはいつでも適用できる。

▶ **372.3—372.8 Specific elementary school subjects**

372.65 Foreign languages

Including English as a foreign language

373 Secondary education

.2 Types and levels of secondary education and schools

.222 Private schools

Boarding and day schools regardless of level or type of curriculum
Example: public schools

(Great Britain)

.224 Public schools

.23 Levels of secondary schools

Class here upper sections of all-age schools, comprehensive works on all-age schools, e.g., ten-year schools (Soviet Union)

学校制度は国によって異なるといってよい。この二三の例は、外国の制度をもある程度見込んで作られていることを示すものであろう。英語を外国語の一つとしてとらえることも、当然なようであって、実はかなりクールな態度に依るものであると考えられる。Maltbyも American terminology と general bias towards the

needs of Western civilization について、最近の版が救済の努力をしていることを指摘している。⁵⁾

2. 自国優先主義の残存と妥協

言語に関して、英語が最も若い番号 (420) を与えられていることは、既定のこととしなければならない。これが、032 (百科事典). 052 (雑誌). 082 (双書). 820 (文学) を決定している。そして—1— という番号が空くので、ここに“アメリカの”という概念を導入して、031. 081, 810 などが用意されている。

しかし、いずれの場合も、option が用意されているので、1つのクッション作用を呈するとも考えられる。

050 General serial publications and their indexes

▶ 051—059 In specific languages

Arrange by language in which originally published as below; but, if it is desired to give local emphasis and a shorter number to serial publications in a specific language, place them first by use of a letter or other symbol, e.g., Hindi-language serial publications 05H (preceding 051). See also option under 051

051 American

English-language serial publications of Western Hemisphere and Hawaii
(If it is desired to give local emphasis and a shorter number to serial publications in a specific language, it is optional to class them here; in that case class American serial publications in 052. See also option under 051—059)

上の option と下の option とは、やり方が異なるが、このような弾力性は、自国優先主義が、アメリカ優先から、使用国優先に譲ることで、一つの妥協点をもつといえる。

B. 型式のもつ機能

以上、大へんくどいように、引用をくりかえしたが、とくに“Areas” notation の付加の手順、そのための base number の切り方、“Areas” notation の範囲の指定が、ある型にはまって、その都度くりかえされていることに注意したい。

このことは、分類作業時においては、作業者は該当箇所のみで用が足りるという点で、作業に直接役立つもの

であることが諒解されるであろう。この印象は、いまのはやり言葉のサブルーチンに近い。そもそも、分類作業者は、分類表の全体と、その一般的使用法を理解した上で、現実には‘部分’しか見ないで作業するわけであり、極端に言えば、次のページまたは前のページにあることすら、“必要としないから見ない”ものであると仮定すれば、その都度の完全な instructionこそ、完全な遂行を保証するものである。いわば、人間を、一つのシステム要素とみなしていると考えた結果ではなからうか。

単に、分類記号の合成 (schedules 記号と “Areas” 記号の結合) 手順にとどまらず、型式は scope note, reference の位置等にも及んでいる。その用語用文も、いままで見た限りでは型にはまっている。これも、作業者の側からみて、読みとり易くしたものである。Tables の種類も、いちいち、“Areas” notation 1—9 from Table 2,あるいは“Racial, Ethnic, National Groups” notation from Table 5 というように、ラベルはラベルとして扱っている点も注目に値する。

このようなやり方は、分類表を作る側にとっても、編集作業を“機械的”にし、将来のコンピュータ編集へつなげる可能性を大きくもつものといえよう。

C. NDC への提言

- (i) 地理歴史部門の地理的分類項目について、項目を増やすこと、とくに日本地方区分について、少くとも県以下のレベルが必要である。このことは地方郷土資料に関して、すでに明らかであろう。
- (ii) 行政区画から離れた見方も考慮に入れること。行政区画主義の欠陥は、「日本アルプス」が地理記号索引にないことが象徴しているようである。外国についても同じ。
- (iii) 印刷様式について、いま一段の工夫が必要と思われる。また指定型式の不一致が認められ、却って誤りやすい点があること。
- (iv) Scope note, 注記, 参照について、これらを増加すること、型式を統一することを考えること。
- (v) 分類項目自体も、地理区分に関係する部分から推定すると、拡充すべき点、国際的な観点を取り入れるべき点が少くないように見受けられる。
- (vi) 以上のために、DDC 18 は大へんよい参考となるであろう。

- 1) Dewey, Melvil. *Dewey decimal classification and relative index Ed. 18*. Lake Placid, N. Y., Lake Placid Club Education Foundation, 1971. p. 7-8.
- 2) Chan, Lois Mai. "Dewey 18: another step in an evolutionary process," *Library resources and technical services*, vol. 16, no. 3, summer 1972, p. 383.
- 3) 小林 胖. 「学術用語集・図書館学編」における分類学用語の考察, " *Library and information science*, no. 9, 1971, p. 483-494.
- 4) Feskett, A. C. *The subject approach to information*, 2nd ed. London, Clive Bingley, 1971. p. 218.
- 5) Maltby, Arthur. *Sayers' manual of classification for librarians*, 5th ed. London, André Deutsch, 1975. p. 146.